

令和3年度 公共事業再評価

道路事業：2事業

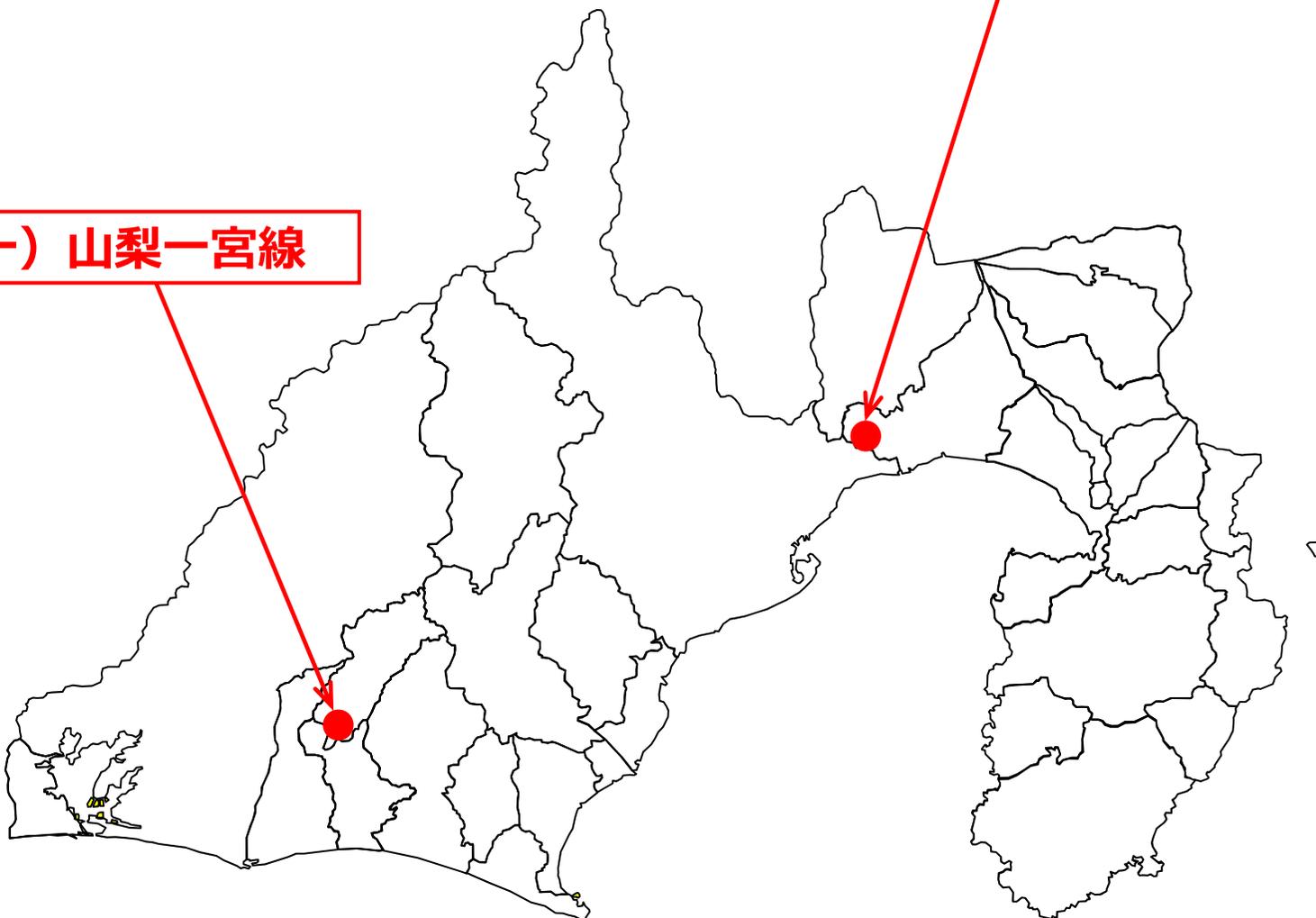
番号	事業名	箇所名	代表事業
1	道路改築事業	いっぽんけんどうふじゆいせん しんしんふじかわばし 一般県道富士由比線（新々富士川橋）	○
2	道路改築事業	いっぽんけんどうやまなしいちのみやせん 一般県道山梨一宮線	

交通基盤部 道路局 道路整備課

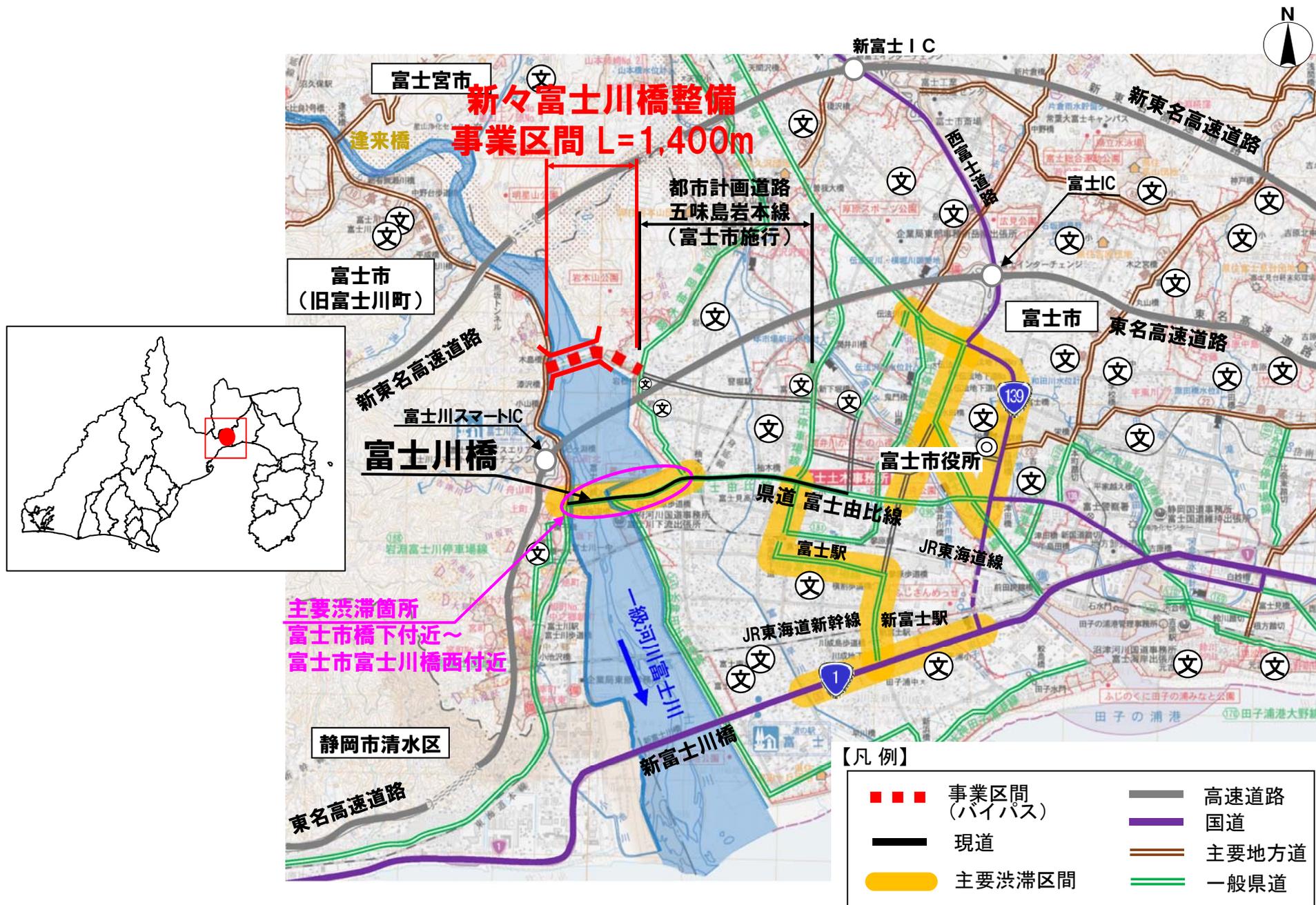
令和3年度 公共事業再評価

(一) 富士由比線 (新々富士川橋)

(一) 山梨一宮線



1. 事業箇所位置図 (詳細)



2. 事業概要



■ 事業目的

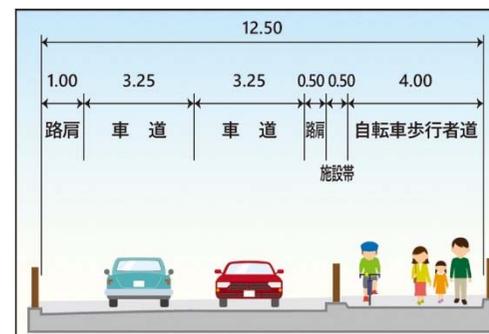
- ① 富士川橋の渋滞緩和
- ② 南海トラフ巨大地震等に対して緊急輸送路の機能を補完する道路の確保

■ 事業内容

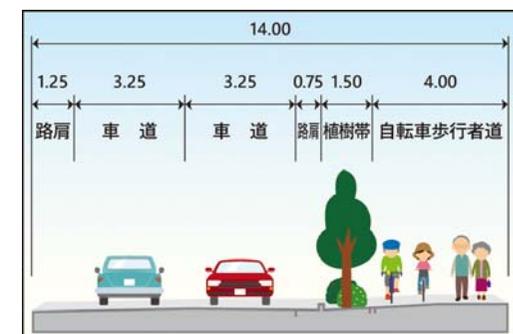
事業期間 : 平成14年度～令和5年度
 事業延長 : 1,400m
 (橋梁部741.5m、道路部658.5m)
 道路幅員 : 車道6.5(全幅14.0)m
 車線数 : 2車線
 現況交通量 : 23,717台/日 (県道 富士由比線)
 混雑度 : 1.87 (県道 富士由比線)
 計画交通量 : 13,404台/日 (新々富士川橋)
 全体事業費 : 13,000百万円
 進捗率 : 95% (事業費ベース) 【R3末見込み】

【標準横断図】

<橋梁部>



<道路部>



2. 事業概要



下流側から上流側を望む

(令和3年6月8日撮影)

3. 事業を巡る社会情勢等

● 富士川橋周辺の渋滞状況



① 富士川橋東側 (富士市松岡地内)



② 東名高速道路南側 (富士市岩淵地内)

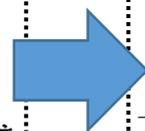
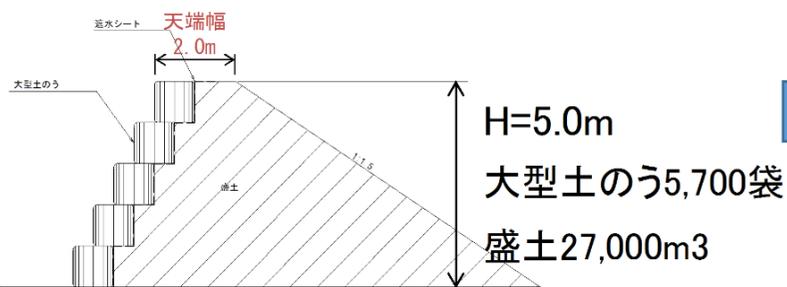
3. 事業を巡る社会情勢等

前回からの変更点・理由

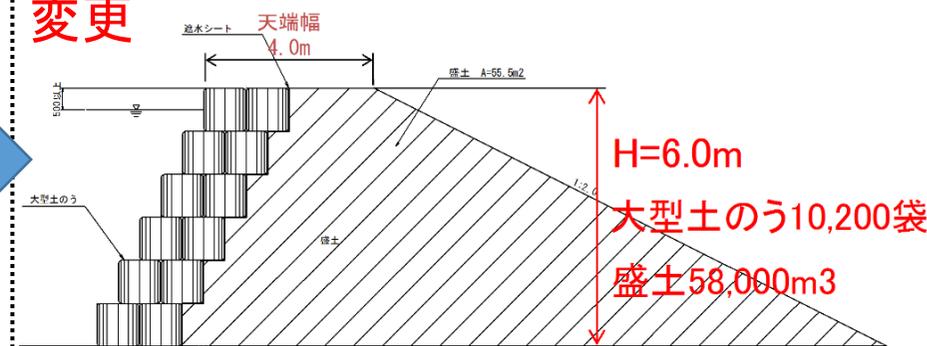
	前回 (H28)	今回 (R3)	主な変更理由
①計画期間	H14～R3	H14～R5 (+2年)	・用地取得に想定以上の時間を要したため。
②全体事業費	11,000百万円	13,000百万円 (+2,000百万円)	・材料費等の上昇 ・河川内工事に伴う仮締切など仮設工の増工

河川内に設置する仮締切について、H30.3の降雨による出水により、仮締切高の計画で用いる河川流量が増加となり、仮締切高を見直した結果、**仮設工が増工**となった。

当初



変更



4. 事業の投資効果（費用便益比）

総費用 (C)	133.23億円
改築費	133.31億円
維持管理費	0.61億円
用地残存価値	-0.69億円
総便益 (B)	214.28億円
走行時間短縮便益	200.65億円
走行経費減少便益	10.37億円
交通事故減少便益	3.26億円



	今回評価 (R3)
費用便益比 (B/C)	1.61
経済的内部収益率 (EIRR)	6.68%

(前回評価 2.03)

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{総便益 (走行時間短縮便益 + 走行経費減少便益 + 交通事故減少便益)}}{\text{総費用 (事業費 + 維持管理費 - 用地残存価値)}}$$

5. 事業の投資効果（定性的な効果）

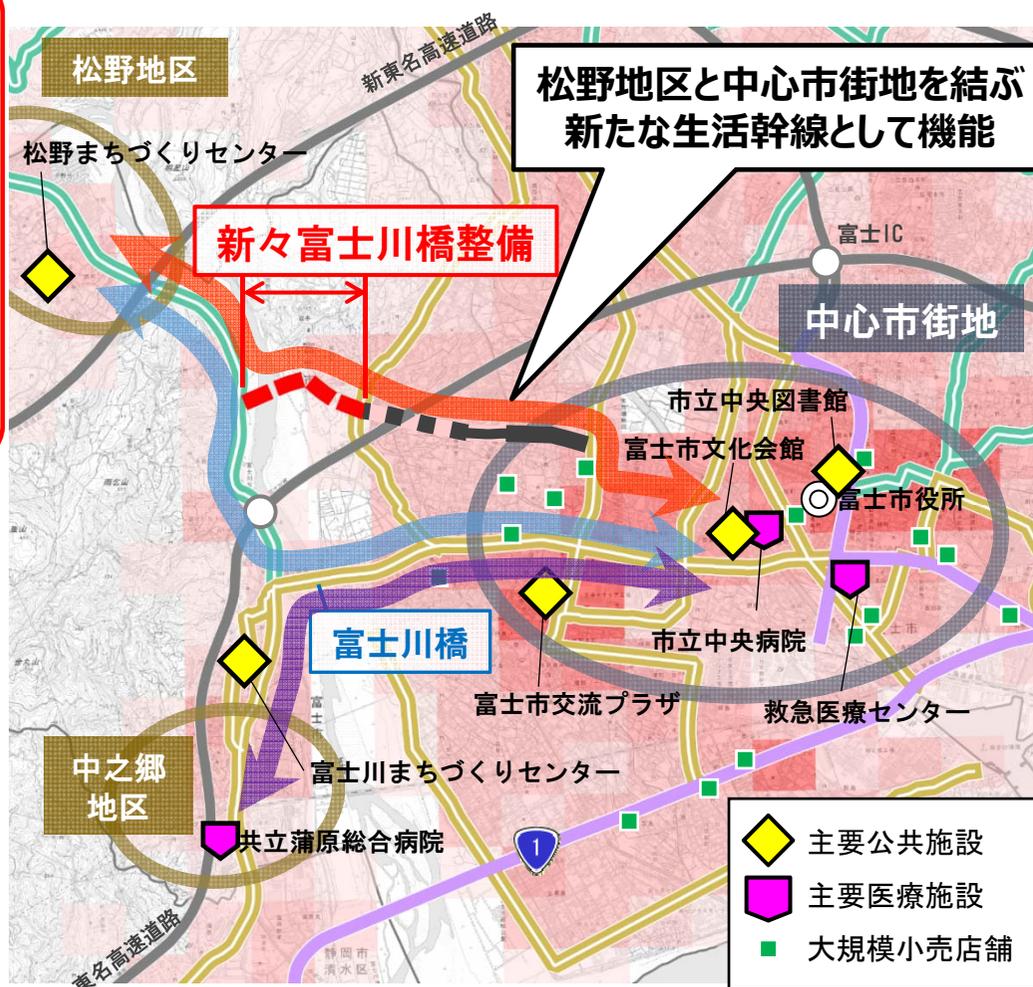
- ① 富士川東西の交流促進
- ② 公共交通の利便性向上
- ③ 企業活動の活性化
- ④ 防災機能の強化

5. 事業の投資効果（定性的な効果）

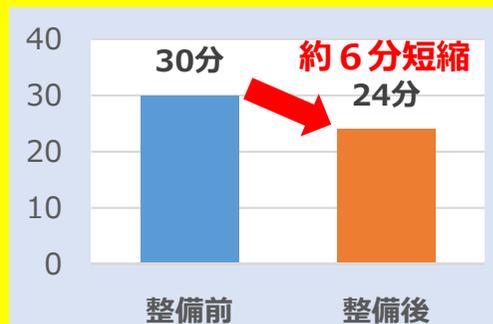
① 富士川東西の交流促進

- 松野地区や中之郷地区と中心市街地とのアクセス強化により移動時間が短縮され、生活利便性が向上する

地域の声
 ・富士川橋は、通勤時の渋滞が激しく、地域生活に支障をきたしており、**早期の完成を期待**しています。



松野地区から
 中心市街地まで
 所要時間が約6分短縮



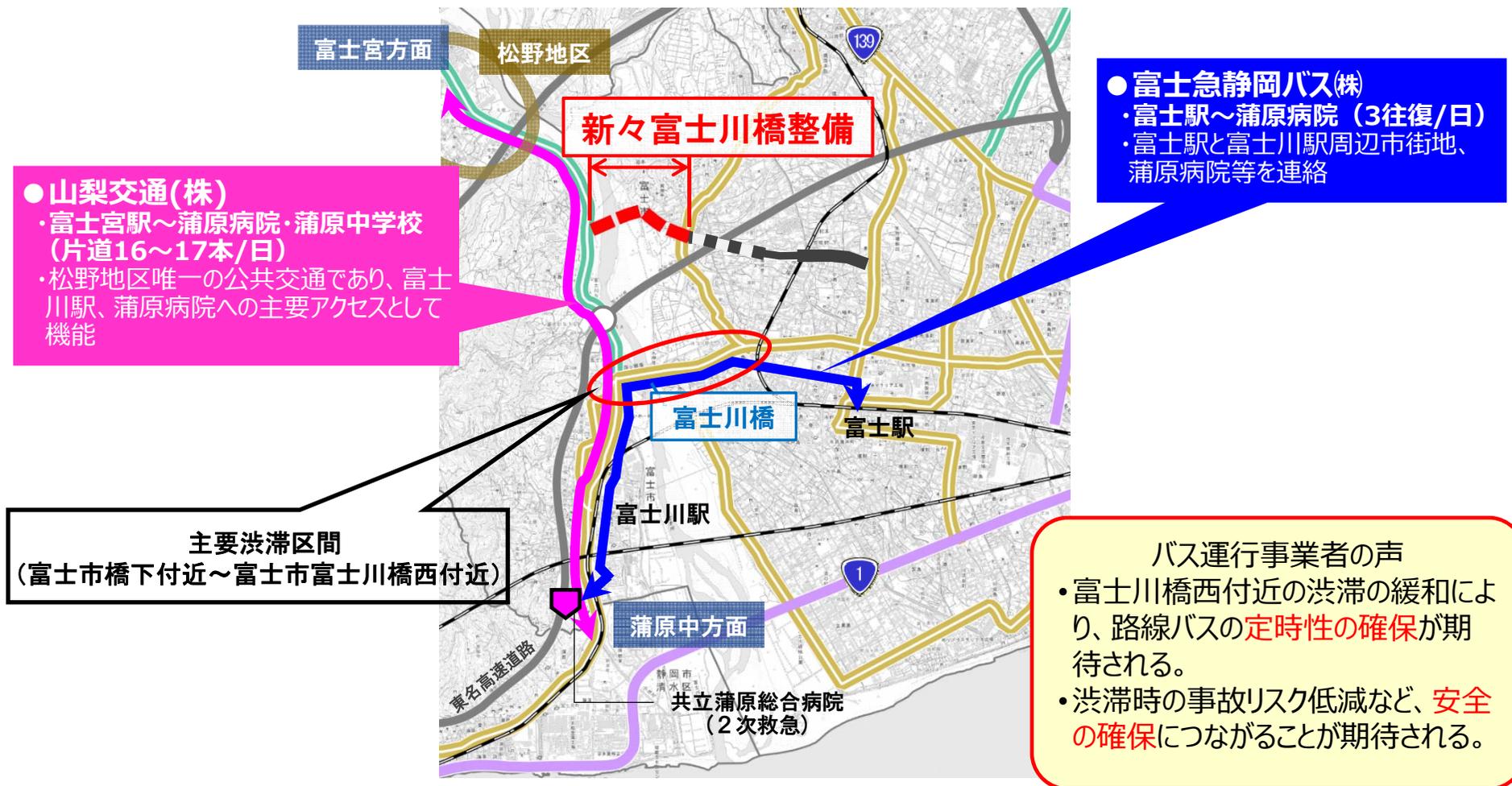
中之郷地区から
 中心市街地まで
 所要時間が約7分短縮



5. 事業の投資効果（定性的な効果）

②公共交通の利便性の向上

- 富士川橋西交差点の渋滞の緩和により、バスの定時性を確保



5. 事業の投資効果（定性的な効果）

③ 企業活動の活性化

- 既存工場群から富士川S I Cへのアクセス強化により企業活動の活性化が期待。



5. 事業の投資効果（定性的な効果）

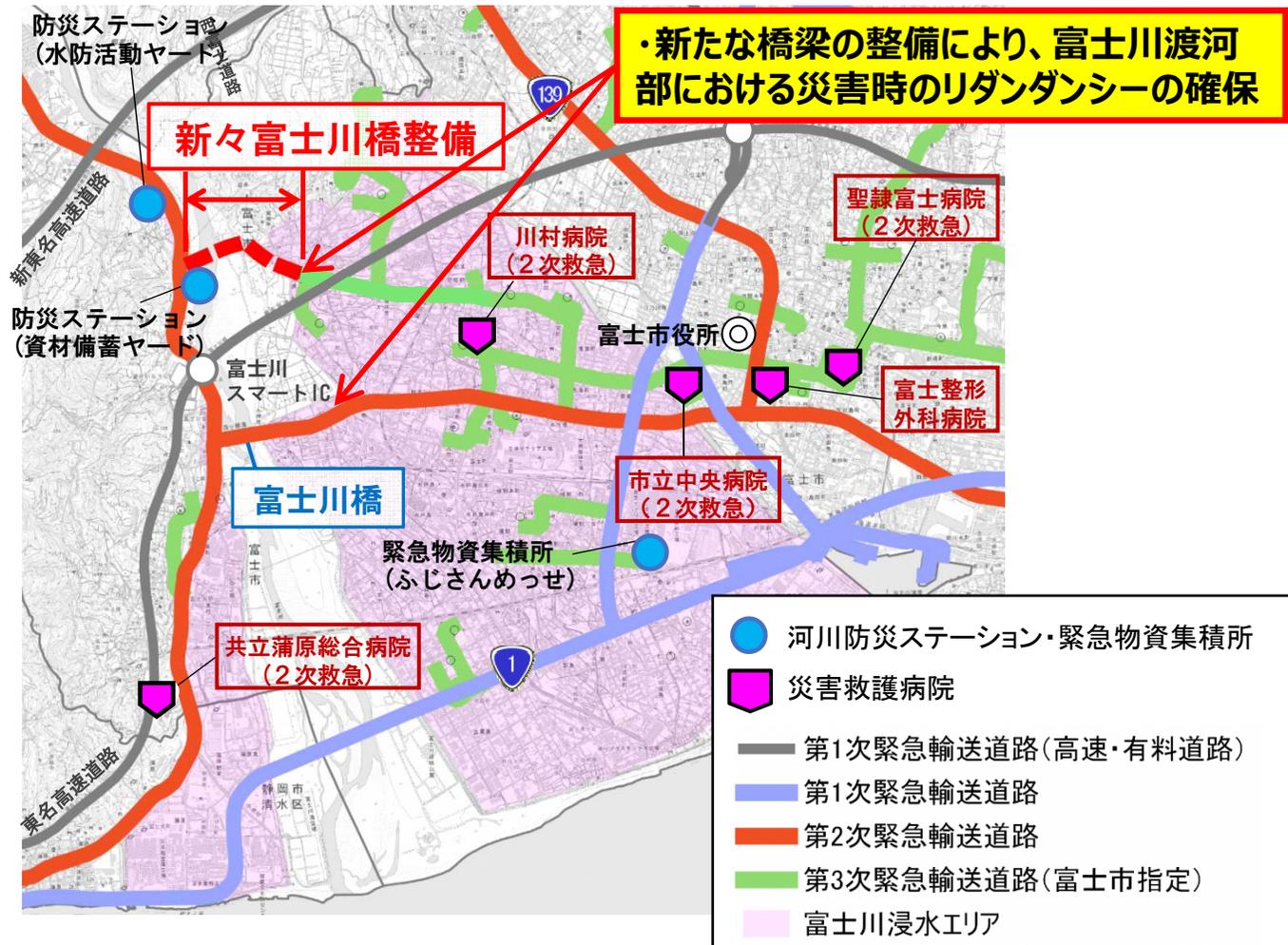
④ 防災機能の強化

- 緊急輸送路を補完するとともに、富士川木島地区河川防災ステーションに直結するルートが確保され、水害、震災時の防災活動に大きく寄与する

・水防活動拠点（防災ステーション）と対岸の浸水想定区域を直結し、迅速な出動を支援



木島地区河川防災ステーション写真・事業進捗状況：令和2年度 甲府河川国道事務所の事業概要より



7. 事業の進捗状況

- 事業費ベース : 95% (令和3年度末見込み)
- 工事費ベース : 95% (令和3年度末見込み)
- 用地取得面積ベース : 99% (令和2年度末時点)



左岸側から右岸側を望む

(令和3年6月8日撮影)

8. 今後の事業の進捗の見込み

- 令和2年5月末に橋梁下部工（橋脚6基、橋台2基）がすべて完成し、同年11月より橋桁の架設工事に着手している。
- 地元の期待も大きいため、引続き事業の進捗を図り、令和5年度に供用予定である。
- 本事業の整備効果を確実に発揮させるためには、橋梁と既存道路を結ぶ接続道路の整備が重要であることから、事業主体である富士市と緊密に連携して整備を進める。

9. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 他現場の発生土を道路盛土へ流用するなど、引続きコスト縮減を図る。
- 供用後、特に腐食が懸念される桁端部等に対して、塗装の増塗による長寿命化対策を実施し、ライフサイクルコストの縮減を図る。

10. 対応方針（案）とその理由

本事業は、

- ・ 富士川橋周辺の渋滞緩和により、地域内交通の円滑化、公共交通の利便性向上、企業活動の活性化に寄与する。
- ・ 緊急輸送路を補完し、防災機能の強化に寄与する。
- ・ 新たな橋梁の整備は地元の期待も大きく、地元も事業に協力的である。
- ・ 費用便益比（B / C）が「 1.61 」であり、1.0を上回っている

以上から、**事業効果が大い**。



事業を**継続**し、早期完成を図る。